

## 電子タバコについて

平成31年1月放送

大門 和

昨年の10月にタバコが値上がりしました。これを機会に禁煙をしようと決心した方は少なくないようです。そうはいつでも、タバコを簡単にやめることなどできるものではありません。そんな時、救世主のように現れてきたのがこの数年、売れ行き急上昇中の「電子タバコ」と言うものです。今日は電子タバコについて考えてみたいと思います。タバコを吸う人にとっても吸わない人にとっても、また禁煙を考えている方にとっても知っていただきたい事柄です。電子タバコとは、紙巻きたばこのようにタバコの葉に火をつけてその煙を吸うではありません。ニコチンを含まない良い香りの液体や、タバコの葉を電気加熱して発生する蒸気を吸い込むものです。したがって、ニコチンを含むものも含まないものがあります。いずれも、「タールなどの強い発がん物質が発生しないので、体に害がない、またニコチンゼロの商品ではニコチン中毒を防ぐことができる」というのが宣伝文句となっています。本当でしょうか？もちろん、普通のタバコに比較



すれば、発がん物質が極めて少ない事は事実です。普通のタバコを吸い続けるよりは、まだましだと言えます。しかし、さまざまな懸念や問題点も次々と明らかになってきました。一つは、わが国では禁煙を目的として電子タバコを吸い始める方が多いのですが、本当に禁煙の手助けになるかどうかです。確かに、完全禁煙に結び付く方もおられます。一方で、普段はタバコも吸いながら、禁煙場所では周りを遠慮して電子タバコにする方も少なくありません。また、ニコチン量の少ない電子タバコでは、物足りなさから、吸い込む深さや回数が増えてしまうこともしばしばです。当然、いつまでたっても禁

煙はできず、むしろニコチン依存を強め、禁煙を妨げてしまう結果となります。次に、発がん物質はあるのかないのかです。電子タバコでは液体が加熱される時に、ホルムアルデヒドなどいく種類もの発がん物質の新たな発生が確かめられています。この物質は、粘膜への刺激も強く、微量とはいえ外に流れて、周囲の人たちにも影響を与えます。さらに問題なのは、無害であるとの思い込みから、未成年での喫煙習慣を誘い、将来のニコチン依存者を増やす危険性です。特にアメリカでは、未成年者の電子タバコ使用が急増していると言います。日本でもそうならないとは言い切れません。

結論として電子タバコはどの程度安心安全かという事ですが、まだ発売されて年月の浅い電子タバコです。少ないとはいえ、含まれている発がん物質を長期間吸い続けることによる危険度については、まだ結論がでていないといえます。吸い続けた人の将来の健康状態がどうであるのか、その結果を待つこととなります。

ちなみに、我が国で最も売れているアメリカ最大手タバコ会社の加熱式電子タバコは、本国のアメリカでは、いまだに販売が許可されていません。さらにニコチンを含まない電子タバコにも今後販売禁止が検討されています。これをどう考えたらよいのでしょうか？

皆さんご自身で電子タバコの是非を考える判断材料にしていただければ幸いです。

